

FD

Faculty Development

NEWS LETTER

No.34

2022



## 新しい時代のFDの荒波がやってくる

教育支援センター所長 中村 壽宏

一般的には、FD(ファカルティ・デベロップメント)については、「授業改善のことでしょ? アンケートをとって、学生の声を聞く取り組み」という認識が、未だに強いように思えます。いえ、決してそれは間違っていないのですが、近年、とくに文部科学省の政策的な方針や、さらにはICT技術の発展等によって、高等教育組織のFDの姿や求められる水準がずいぶん高くなってきたことについて、多くの先生方はご存じないのではないのでしょうか。

もちろん、新しい時代のFDの手法について情報を得てそれを検討し、授業科目単位で効果的なルーブリックやPDCAサイクルの構築に着手している先生方は、本学においても実は相当多数おられることは分かっています。

しかし、これまでは一部の教員が取り組んできた新しい時代のFDの手法について、ほとんどすべての先生方にこれが「強く求められる」時代が、すぐそこまで迫っています。10年後? 5年後? いえいえ、もうすぐ後ろまで迫ってきているんです。

などとすこし脅しめいた文章になってしまいましたが、目下、すでに各学部等がこの新しい時代のFDの手法について検討し、具体的な導入を始めつつあることも、教育支援センターやFD・学生支援推進委員会に報告されてきております。ただ、いま、すべての先生方にご理解頂きたいことは、おそらく数年のうちに、早

ければ次年度から、この新しい時代のFDの手法はすべての先生方を巻き込む「大学の基本的方針」となるだろう、ということです。

たとえば、いままでは、「教育改善のための学生による授業アンケート」のデータ分析結果は、各授業担当の先生方に送付したままその利活用は各先生方にお任せしていましたが、きわめて近い将来、学部等の単位でのいわゆるPDCAサイクル確立の一環として、そのデータ分析結果に対する各先生方の所感表明や改善計画報告が求められるようになるかもしれません。

また、いわゆるルーブリック(学生の学修の達成度を表形式の評価項目を用いて測定する評価方法)についても、多くの授業科目に対して、シラバスと共に毎年度公表することになるのかもしれない。

あのシラバス厳格化のインパクトに匹敵する荒波が、再びやってくるのです。

現実に、このような新しい時代のFDの手法への対応を迫られたときに、いや突然そんなこと言われても…と困惑なされないように、まずは心構えをしっかりとお願いいたします。教育支援センターは、すべての先生方がそのような新しい時代のFDの手法を導入できるように、全力でサポートいたします。

これからも、教育支援センターをよろしく願います。

### Contents

- 1 新しい時代のFDの荒波がやってくる
- 2 2021年度「教育改善のための学生による授業アンケート」
- 3 2022年度新入生なんでも相談窓口「アスクカウンター」実施報告
- 4 2022年度 第1回及び第2回 新任教員対象FD研修会 開催報告
- 5 教育支援センターにおける学習相談について



# 2021年度「教育改善のための学生による授業アンケート」

本学では、学生による授業に関するアンケートを隔年で全学的に実施しています(FYSのみ毎年実施)。10回目の実施となった2021年度の授業アンケートから、新たにウェブシステムを導入いたしました。従来のマークシート方式と比べ、授業形態を問わずに実施することができ、迅速なフィードバックや過去のアンケートとの比較など、アンケート結果の様々な活用が期待されます。

各教育組織におかれましては、今回の結果から授業やカリキュラムの傾向、学生の意見等をご確認のうえ、授業改善へご活用いただけますと幸いです。FD・学生支援推進委員会でも、今後も本アンケート結果の組織的・体系的な活用状況を集約し、情報の共有化を進め、教育改善の継続的な促進に取り組めます。

最後に今回のアンケート実施にご協力いただきました学生、教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

教育支援センター

果は公開しない。公開期間は一ヶ月程度とする。

- 自由記述回答結果は、各担当教員及び教育組織長(学部長、共通教養教育センター所長、資格教育課程センター所長)にフィードバックを行い、公開はしない。
- 各属性・項目で集計した結果報告書を、ホームページ、「JINDAI Style」等で公表する。
- 科目ごとのアンケート結果は、教員所属学部及び各教育組織(各学部学科、共通教養教育センター、資格教育課程センター)に提供し、それらの組織において、教育内容・方法の組織的改善活動のためのみに活用する。
- 集計及び分析の結果については、自己点検・評価、FD及びIRにも活用する。
- 科目ごとのアンケート結果は、教育貢献表彰制度の選定の際、参考とすることができる。

## 6. 実施時期

実施日は、原則として授業期間の最終週から1週前の授業日とし、最終週の授業日を予備日とする。

## 7. アンケート実施方法及び学生の回答方法

- 教員は授業アンケートの実施について学生に周知し、実施を指示する。
- 教育支援センターは、授業アンケート回答先のURL及び回答方法をポータルサイトに予め掲載しておく。
- 学生は授業時間内にアンケートを回答する。ただし、やむを得ず授業時間内に回答できない場合には、アンケート実施期間内であれば回答ができる。

## 調査概要

### 1. 目的

本アンケートは、全学的な組織的教育改善に向けて、学生の授業に対する取り組みや捉え方を理解する資料を収集し、各々の教員及び組織に授業を改善する機会を提供することを目的とする。

### 2. 実施対象

原則として、教育課程表にあるすべての開講科目を対象とする。ただし、科目を所管する教育組織長(学部長、共通教養教育センター所長及び資格教育課程センター所長)が、科目の特性により実施不可と判断した科目については、学長が認めた場合に限り、実施対象外とすることがある。

### 3. 実施方法・調査項目

- アンケートは、ウェブ方式による実施とする。
- アンケートは、記名式(学部学科、学籍番号及び氏名)とする。  
※学生には、成績評価との関係が一切ないことを周知する。
- アンケート項目は、大量のデータ処理を行うためにシンプルなものとし、多項目選択式にて実施する。また、学生が自由に記述できる欄も設ける。
- アンケート項目は、「FYS」のみ、別に作成する。

### 4. 実施機関

FD・学生支援推進委員会が実施する。実施に関わる事務は教育支援センターが担当する。

### 5. 集計・分析結果のフィードバック

- 科目ごとの各調査項目の回答を集計し、各担当教員に提供する。  
但し、記名式により得られる個人情報、連結可能匿名化して、出席、成績及びその他データと組み合わせて分析することを目的とし、各担当教員へのフィードバックは行わない。
- アンケート結果は、全学及び教育組織(各学部学科、共通教養教育センター、資格教育課程センター)ごとに集計し、図表化して提供する。なお、アンケート結果の組織的活用のため、各組織の要望に応じて、クロス集計等、データを加工して出力する。
- 集計及び分析の結果については、FD・学生支援推進委員会にて報告する。
- アンケート結果は公開することとし、公開方法・対象は、次のとおりとする。
  - 科目ごとのアンケート結果は、本学教職員、非常勤講師及び学生に限り図書館及び教育支援センターで閲覧可能とする。ただし、自由記述回答結果は除く。
  - 教員は、授業アンケートのウェブサイトから担当している科目のアンケート結果を閲覧することができる。
  - 学生は、授業アンケートのウェブサイトから履修登録をしている科目のアンケート結果を閲覧することができる。ただし、自由記述回答結

## 実施科目集計表

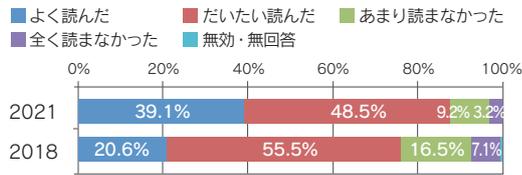
前学期		横浜	湘南ひらつか	みなとみらい	合計
対象教員数	専任	283	67	156	506
	非常勤	469	125	329	923
	計	752	192	485	1,429
実施教員数	専任	283	67	155	505
	非常勤	466	125	326	917
	計	749	192	481	1,422
実施率	専任	100.0%	100.0%	99.4%	99.8%
	非常勤	99.4%	100.0%	99.1%	99.3%
	計	99.6%	100.0%	99.2%	99.5%
授業科目数集計	対象科目	1,777	467	1,350	3,594
	実施数	1,722	422	1,306	3,450
	実施率	96.9%	90.4%	96.7%	96.0%
回収件数集計	履修延べ人数	107,076	14,592	47,309	168,977
	回収件数	63,031	10,152	29,817	103,000
	回収率	58.9%	69.6%	63.0%	61.0%

後学期		横浜	湘南ひらつか	みなとみらい	合計
対象教員数	専任	306	71	162	539
	非常勤	469	133	325	927
	計	775	204	487	1,466
実施教員数	専任	306	71	160	537
	非常勤	460	131	320	911
	計	766	202	480	1,448
実施率	専任	100.0%	100.0%	98.8%	99.6%
	非常勤	98.1%	98.5%	98.5%	98.3%
	計	98.8%	99.0%	98.6%	98.8%
授業科目数集計	対象科目	2,154	503	1,295	3,952
	実施数	1,885	392	1,210	3,487
	実施率	87.5%	77.9%	93.4%	88.2%
回収件数集計	履修延べ人数	98,583	12,882	41,787	153,252
	回収件数	35,092	6,246	17,134	58,472
	回収率	35.6%	48.5%	41.0%	38.2%

## 調査結果

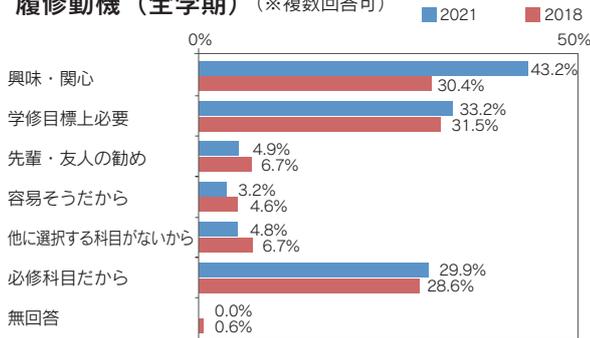
- グラフは回答率 2%以上の数値のみ記載しています。
- 前学期+夏季集中+後学期を「全学期」と記載しています。
- 2021年度はウェブ方式により回答必須としたため「無回答」の選択肢がありません。

### 1. シラバス事前確認 (全学期)



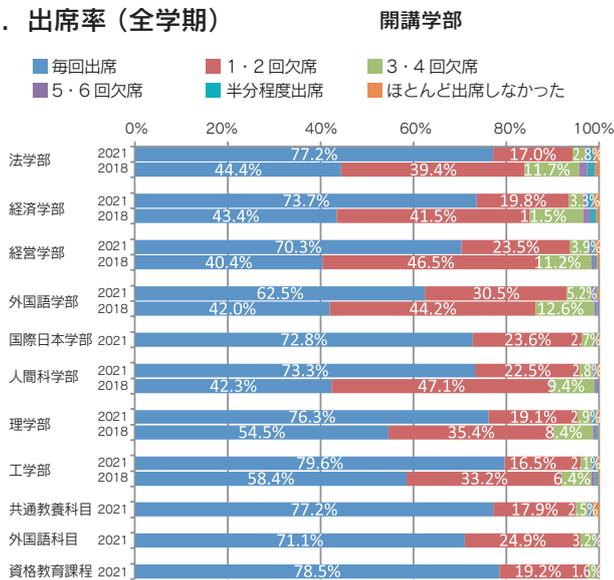
2018年度に比べ「よく読んだ」が大幅に増加し、「あまり読まなかった」「全く読まなかった」が減少していることから、ほとんどの学生がシラバスを読んで履修を決めている傾向にあることが分かった。

### 2. 履修動機 (全学期) (※複数回答可)



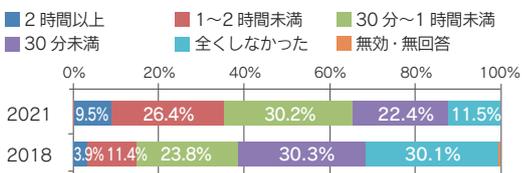
2018年度と比べ「興味・関心」が増加し、「先輩・友人の勧め」「容易そうだから」「必修科目だから」という消極的な回答が減少しており、学修目的や自らの興味・関心から履修を決める学修意欲の高い学生が増加傾向にある。

### 3. 出席率 (全学期)



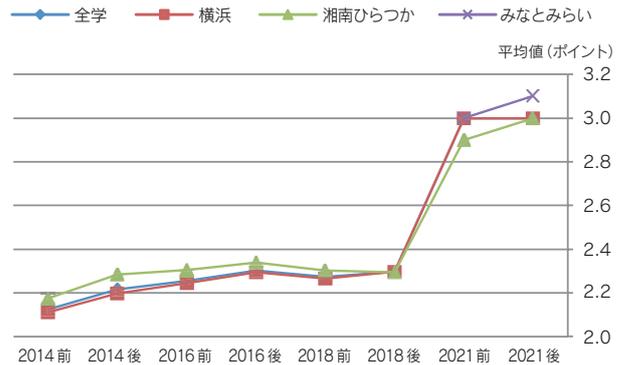
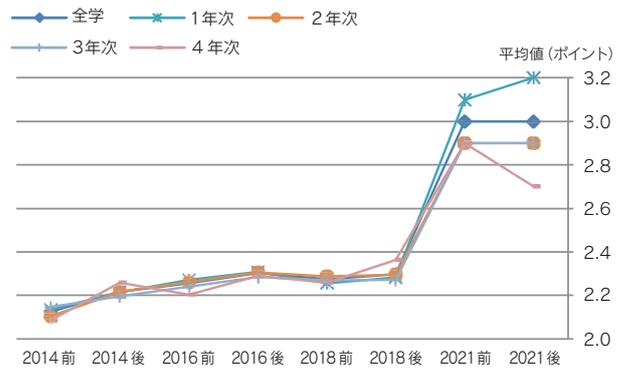
2018年度と比べ「毎回出席」の回答が大幅に増加している。特に、前回は理系学部の出席率が高い傾向にあったが、今回はほとんどの学部で70%を超えて「毎回出席」している傾向にある。

### 4. 週平均の予習・復習時間 (全学期)



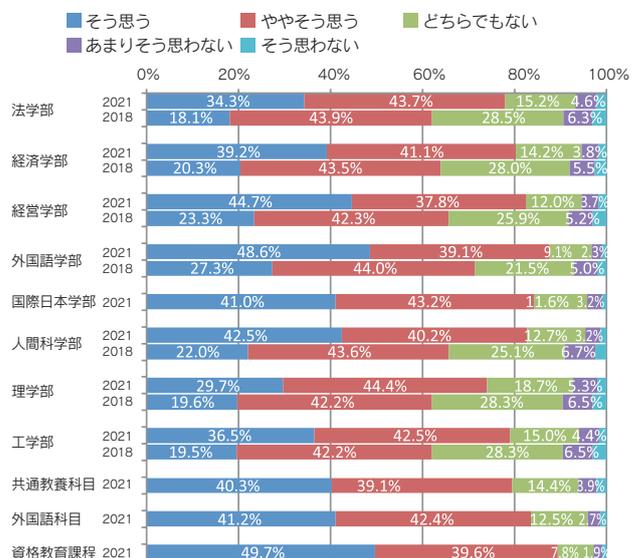
授業外の学習時間も増加傾向にある。「全くしなかった」の割合が約20%ほど減少しており、学習が習慣化しつつあるといえる。

### ◎学習時間の時系列比較

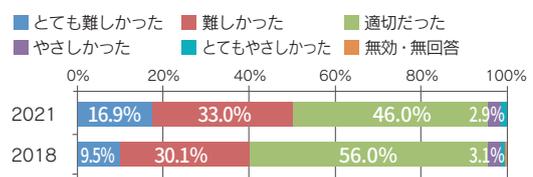


時系列で比較すると、学修時間はどの年次・キャンパスでも増加していることがわかる。「2. 履修動機」の「興味・関心」が増加していることや、後述の「6. 授業難易度」の「とても難しい」「やや難しい」が約50%と半数を占めることから、授業への事前事後の取り組みが増加しているものと考えられる。

### 5. 授業に意欲的・積極的に取り組んだか

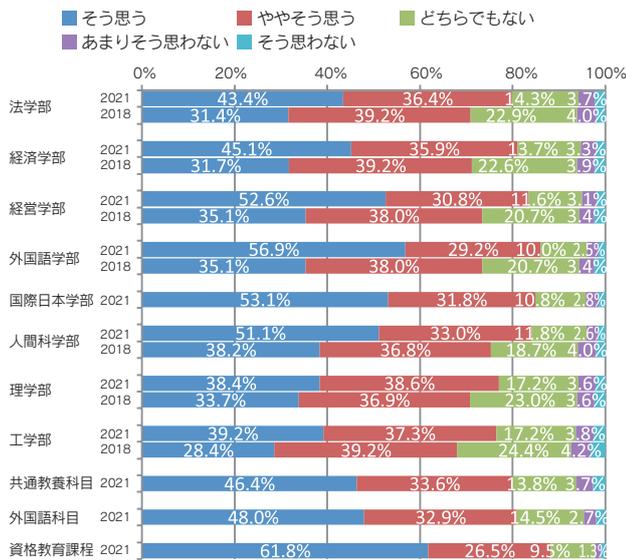


### 6. 授業難易度 (全学期)



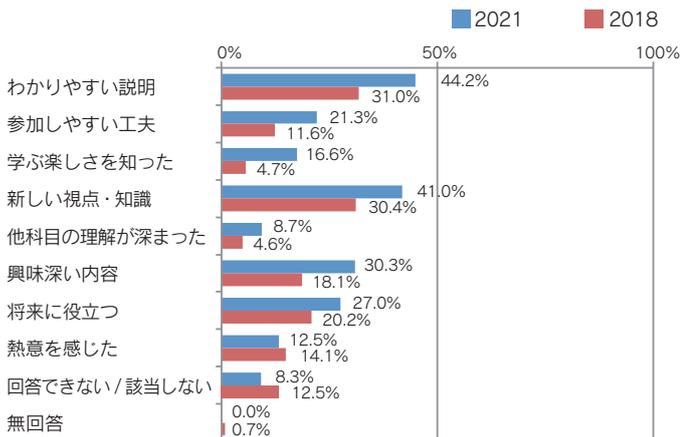
「とても難しかった」「難しかった」が約50%を占め、「適切」を上回っている。遠隔授業では「課題の多さ」が課題となったが、難易度が上がっていると学生が感じる理由の調査が求められる。

## 7. この授業を履修して良かったと思うか (全学期)



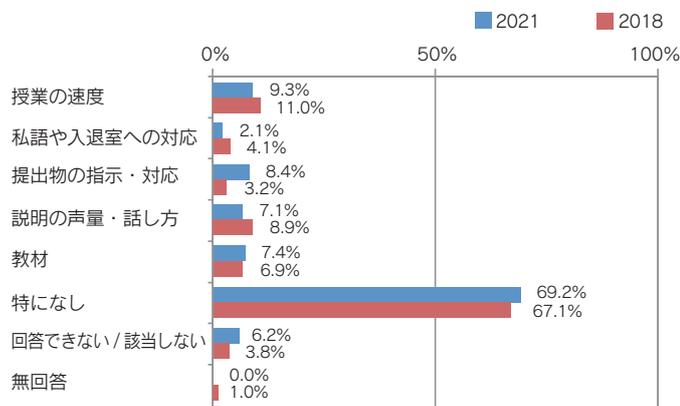
「6. 授業の難易度」で授業難易度が上がっていると感じる学生が増えたが、各学部で「そう思う」が増加しており、履修充足度が上がっている。経営学部・外国語学部・国際日本学部・人間科学部・資格教育課程の科目で充足度が高い傾向にあるが、理系の理学部・工学部では低い傾向にある。

## 8. この授業で良かったこと (全学期) (※複数回答可)



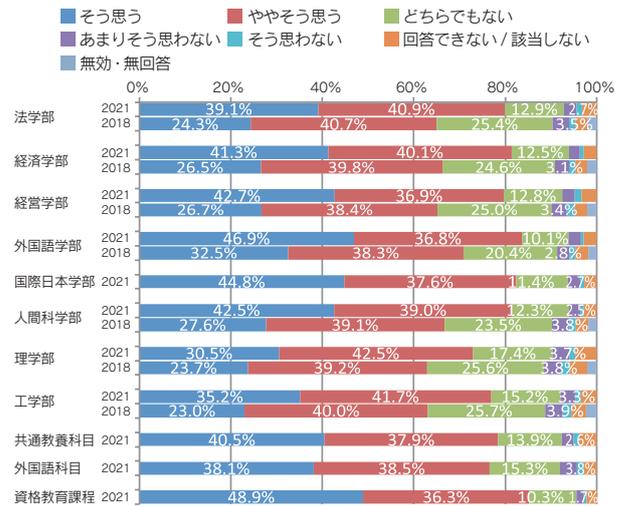
「7. この授業を履修して良かったと思うか」の肯定回答率が上がっている影響か、授業で良かったことの評価も上昇している。唯一、「熱意を感じた」のみ前回の14.1%から12.5%へと微減した。

## 9. 授業の改善が必要と思うこと (全学期) (※複数回答可)



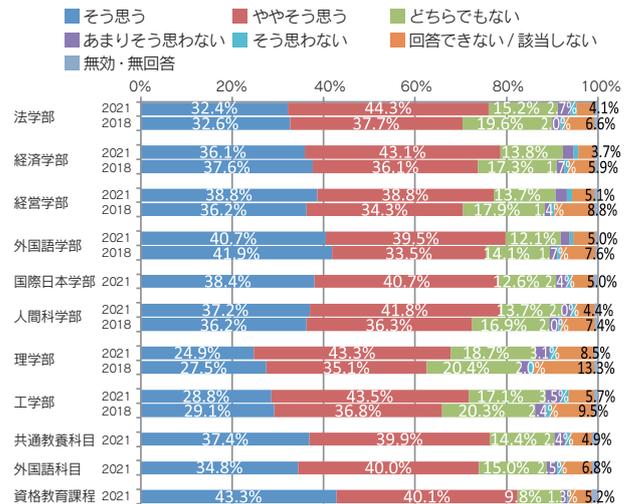
「8. この授業で良かったこと」に準じ、「9. 授業の改善が必要と思うこと」についても2018年度と比べて低くなりつつある。「提出物の指示・対応」と「教材」のみポイントが増加しているのは、LMS「Web Class」が2021年度に新たに導入され、操作に不慣れな学生が一定数いた可能性がうかがえる。

## 10. 授業の到達目標が明示されていたか (全学期)



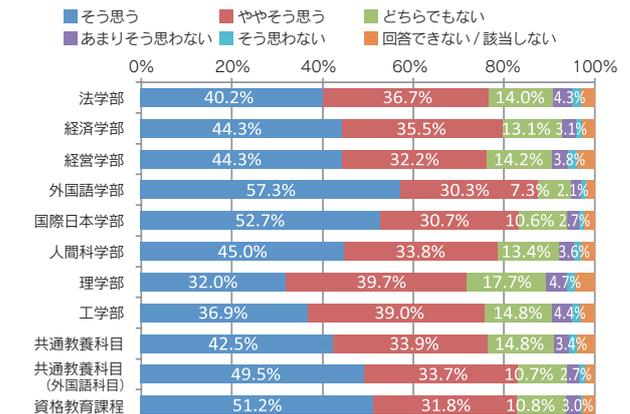
いずれの学部においても「そう思う」「ややそう思う」が増加し、授業やシラバスを通じて到達目標が示されたことがうかがえる。一方で、「回答できない」が一定数あることは、到達目標に対する学生の意識・理解が低い可能性もあり、今後の検討課題とする必要があるかもしれない。

## 11. 到達目標を達成できたか (全学期)



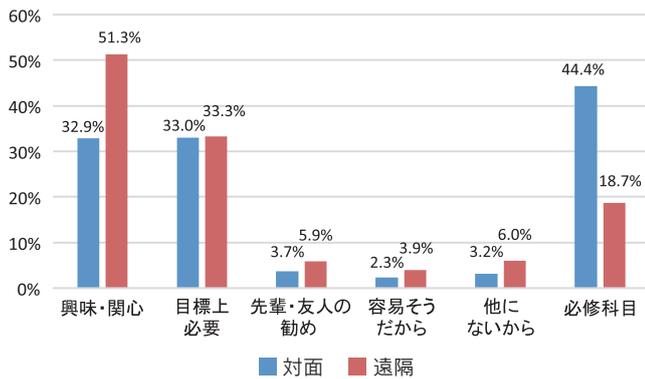
「10. 授業の到達目標が明示されていたか」で肯定回答が2018年度と比べて増加していたのに対し、到達目標への到達度については前回と変わらず低い結果となった。授業難易度が高い傾向にあったためか、一部の学部では2018年度よりも下がっている。一方で、授業充足度は高かったため、学生の自己評価が低い可能性がある。GPAとの比較や定期試験の有無の影響を検討することのほか、レポートや小テストなどのフィードバックを通じて学生の自己評価を上げる取り組みが求められるかもしれない。

## 12. 授業前後の課題を適切に指示されたか (全学期)



### 13. 面接(対面)授業と遠隔授業の比較

#### (1) 履修動機の比較



2021年度で2年目の実施となった遠隔授業に関して、面接(対面)授業との比較分析を行った。

「履修動機」の比較では、対面授業では「必修科目」が約26%高く、遠隔授業では「興味・関心」が約18%高い傾向にあった。

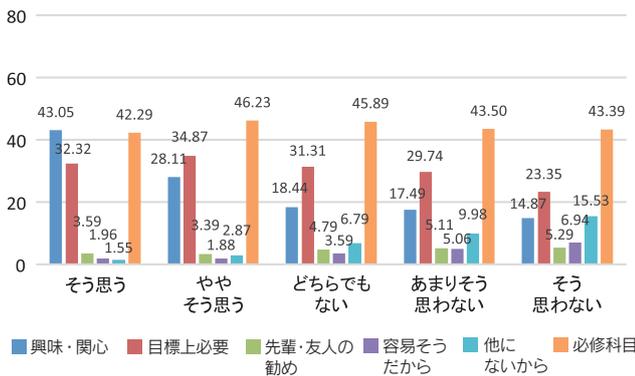
この「履修動機」を他の設問とクロス集計したグラフが下の4つである。「授業へ意欲的・積極的に取り組んだか」「この授業を履修して良かったと思うか」ともに「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生ほど、「履修動機」の回答で「興味・関心」を選択している割合が高い。特に、遠隔授業のほうが面接(対面)授業よりもその傾向が高く出ることがわかる。

「履修動機」として「必修科目」を選んでいる割合については、「授業へ意欲的・積極的に取り組んだか」「この授業を履修して良かったと思うか」ともに一定の回答があり、差が少ない。

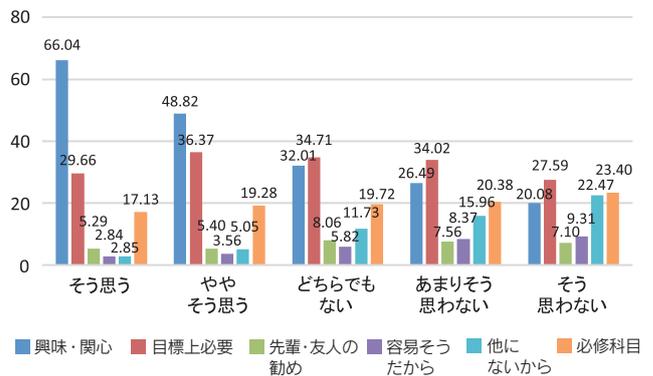
カリキュラムの編成上、必修科目と選択科目の開講割合が対面と遠隔とで異なる要因もあるが、遠隔授業の方が興味・関心を理由に受講している学生が多い傾向であることが分かった。

#### (2) 「授業へ意欲的・積極的に取り組んだか」への回答毎の、「履修動機」への回答率

##### 対面

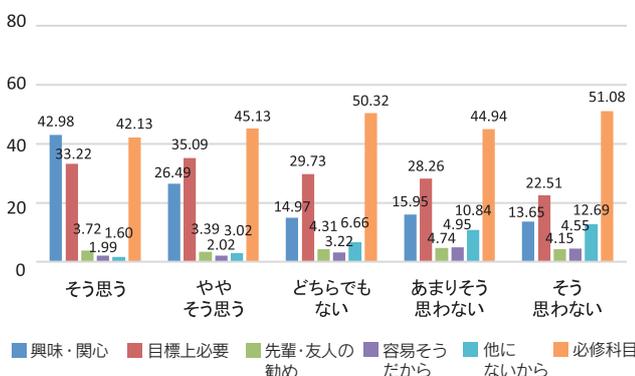


##### 遠隔

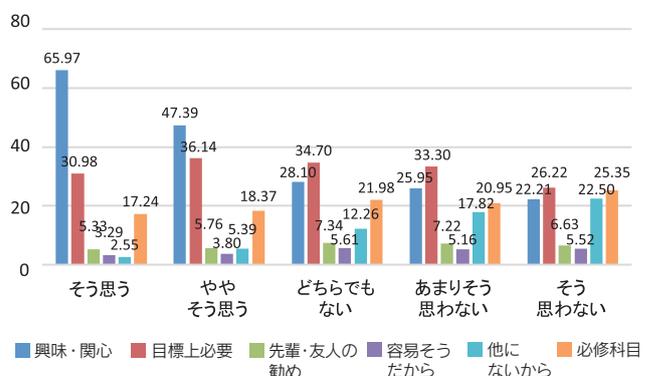


#### (3) 「この授業を履修して良かったと思うか」への回答毎の、「履修理由」への回答率

##### 対面



##### 遠隔



#### 【考察】

初めてウェブ方式で実施した授業アンケートにおいて、まず課題として想定したことが学生の回答率だった。授業内でマークシートを配付する場合と比べて、一般的に授業アンケートをウェブ化すると、学生の回答率が下がるといわれている。本学においても、[2018年度:マークシート方式 前学期74.7% 後学期68.4%] [2021年度:ウェブ方式 前学期61.0% 後学期38.2%]となり、前学期は比較的高い回答率を維持したが、後学期は50%に満たない結果となってしまったことは今後の課題となる。

アンケート結果に関しては、2018年度と比較すると、多くの項目で肯定的な回答が得られた傾向にある。特に、「週平均の予習・復習時間」については、2018年度までは30分未満(全くしなかったを含む)の回答群が60%以上だったことにに対し、2021年度では30分~2時間以上の回答群が65%以上を占めることがわかった。学習時間の時系列比較の推移からも学習時間が大幅に増えているといえる。コロナ禍での遠隔授業において授業後の課題が増加した傾向にあったため、コロナ禍の前後で授業計画や授業運営が大幅に変った可能性がうかがえる結果となった。さらに、学習時間の増加に加え、授業への積極性や履修して良かったという肯定的な回答も増加しているため、授業改善が進んだものと考えられる。一方で、アンケートのウェブ化により回答しない学生も一定数いるため、学生の回答傾向に偏りがある可能性も考えられることから、今後はウェブで実施したアンケート結果の信頼性の検証も課題の一つに挙げられるだろう。

授業アンケートの結果については2022年7月に結果報告書の発行を予定していることに加え、授業アンケートシステム「FDマネージャー」では各学部・学科などの教育組織単位での集計結果、過年度科目の閲覧・比較などをウェブから閲覧できるようシステムを設計しており、各組織や教員個人がアンケート結果を活用しやすいようにしたこともウェブ化の目的の一つである。授業アンケートが本学の教育改善につながることを期待しつつ、教育支援センターでは今後も授業アンケートのさらなる活用を目指し、FDの活性化に努めたい。

## 2022年度新入生なんでも相談窓口「アスクカウンター」実施報告

新入生なんでも相談窓口「アスクカウンター」を、各キャンパスで開催しました。学生UD<sup>\*1</sup>委員会<sup>(※1)</sup>University Development)主催のこの活動は2014年度より開始し、今回で8回目の開催となりました。(2020年度はコロナウイルス感染拡大により中止)

相談内容は様々で、授業、履修登録、サークル活動、資格取得や留学など、大学生活に関する新入生からの相談や疑問を先輩学生が体験談を交えてアドバイスを行うことで、新入生が不安なく大学生活をスタートするための活動となっています。

実施にあたっては、学生UD委員会と有志学生が協同で運営し、コロナ禍で減少した「学部や学年を超えたスタッフ同士の交流の場」という面でも有意義な取り組みとなりました。学生スタッフからは「入学時には不安だった事が多くあったため、新入生の力になりたいと思い参加した」「前はアスクカウンターを利用する立場だったが、今回は運営として関わることが出来て嬉しい」「違う学部の人たちと情報交換が出来る貴重な機会だった」などの声が多数あり、毎年継続的に実施していることにより、学生間で良い循環を生んでいます。

アスクカウンターは学修支援や、ピア・サポートの観点からも実施の必要性が求められるイベントとなっています。「円滑な運営をするためには何が必要か」「効果的な周知の方法」等、準備段階から当日の運営まで学生達が主体となり考え行動するため、社会に出てから求められる「考える力」や「実行力」を楽しく実践的に身に付けることができ、学生たちの成長に繋がる活動となっています。

当日の様子としては、笑い声も聞こえる和やかな雰囲気で行われ、相談に来た新入生も満足した様子で会場を後にしていました。学生スタッフも「どのように伝えればわかりやすく説明できるか」ということを意識して、それぞれ工夫をしながら新入生の不安に対しアドバイスをを行いました。新入生へのアンケートからは、多くの新入生から次年度スタッフをやってみたいという回答があり、アスクカウンターの満足度の高さが伺える結果となりました。

教育支援センターでは、今後もこのような学生主体の活動を支援し、多くの学生が充実した学生生活を送ることができるようサポートしてまいります。

(教育支援センター 平尾 勇輝)

### 【参加した新入生の声】

- 学生生活に漠然と抱えていた不安を解消することができた。
- 先輩が優しく丁寧に教えてくれて助かった。
- とてもよかったし、新入生にはありがたいので今後も続けていってほしい。

### 【運営スタッフ学生の声】

- 新入生が分かりづらいと感じている仕組みは、自身も同じように感じていたところが多く、新入生の疑問を解消した時に達成感があった。
- 新入生の楽しく始まる大学生活の不安を少しでも解消する手伝いできて、とても良い経験になりました。

### 各キャンパスの実施情報

横浜	【期間】 4月4日(月)～8日(金) 【日時】 10:00～16:00 【会場】 8号館2階マップホール
湘南ひらつか	【日時】 4月4日(月) 12:00～14:00 5日(火) 13:00～15:00 6日(水)・7日(木) 12:40～13:30 【会場】 11号館 サークルホール前ホワイエ
みなとみらい	【日時】 4月4日(月)・5日(火) 12:00～18:00 6日(水)～8日(金) 12:30～13:30 【会場】 7009教室～7011教室

主催: 学生UD委員会  
(協力: 教育支援センター・教務課(みなとみらい))

運営: 学生UD委員会・有志学生

運営者・参加者数:

- 【 横 浜 】 運営学生 56名 新入生相談者数 429名(延べ)
- 【 湘南ひらつか 】 運営学生 8名 新入生相談者数 70名(延べ)
- 【 みなとみらい 】 運営学生 36名 新入生相談者数 292名(延べ)





## 2022年度 第1回及び第2回 新任教員対象FD研修会 開催報告

新任教員を対象に、本学における教育の質保証及びその一層の向上を図ることを目的とし、建学の精神や教育理念・各種方針をはじめとする教育に関する基本方針等を理解することで、教育活動を円滑に開始できるよう、新任教員対象FD研修会を実施しました。

### 【第1回】

実施方法：オンデマンド研修

動画公開期間：2022年4月15日(金)～28日(木)

### プログラム

#### (1) 神奈川大学の基本方針及び教育研究について

講師：副学長 戸田 龍介

##### (主な内容)

- 神奈川大学の将来構想、実行計画、重点事業
- 新キャンパス及び新学部構築 ● 認証評価及び自己点検・評価
- 内部質保証の方針
- 学士課程教育に関する基本方針(3つのポリシー)
- 諸活動に関する各種方針
- 教育課程(カリキュラム)の構成 ● 共通教養科目
- 成績評価 ● キャリア支援
- 研究倫理及び研究支援 ● 社会連携・高大連携事業

#### (2) FD活動及び学生支援について

講師：教育支援センター所長 中村 壽宏

##### (主な内容)

- FD活動とその推進体制 ● 教育力向上による教育の質保証
- 横浜市内4大学FD活動連携包括協定
- 遠隔授業実施対策 ● 学習相談 ● 入学前教育課題
- 障がいのある学生支援 ● 授業アンケート

### 【第2回】

開催日時：2022年5月25日(水) 15:00～16:20

(質疑応答を含む)

開催方法：Zoomミーティング方式

主催：教育支援センター

※本FD研修会は録画を行い、開催後、新任の先生方を対象に動画を公開

### プログラム 講演

#### (1) 神奈川大学 産学官連携・研究推進体制について

：研究支援部 部長 羽賀 丈雄

研究活動において注力している点や研究費、学内資金及び外部資金の種類や留意点、産学官連携の推進と特許申請などの紹介を行った。

また、研究費の申請や獲得のみでなく、不正防止・研究倫理・コンプライアンスにおける注意事項についても文部科学省のガイドラインや利益相反・輸出管理の観点を交えて説明を行い、研究費の活用と支援体制に関する内容が凝縮された講演となった。

#### (2) TA・SAについて

：教育支援センター 平尾 勇輝

TA・SA制度の概要から、本学における目的及び運用、活用事例や注意事項等の説明があった。特に申請手続きやスケジュール、就業時間については問い合わせの多い項目として注意点と併せて行われた。

#### 【教員からの声 (受講者アンケートより)】

- ▶ 専任教員となることが初めてなので、大学での教育や運営、研究に関する概要が知れて今後に生かしていけると感じました。教育支援の体制や、研究支援の体制なども知れたので、活用していきたいです。
- ▶ 本学における理念の下で研究と教育がなされている点について大いに学ばせていただきました。また、本学の研究支援体制についてもより具体的に知ることができ、とても有意義でした。また、FD活動に関する取り組み内容がとても合理的であり、とても有意義だったと思います。

教育支援センターでは、授業・研究活動の基本的な考え方について、新任教員の理解がより一層深まることを目的とし、本研修会の充実化を図っています。今後も継続的なFD活動を実施いたします。(教育支援センター 山口 諒)

### FDニュースレターへの寄稿をお願いします

本ニュースレターは、FD活動に対する啓発を促進するため、学部・研究科FD委員会及び個々の教職員の教育改善や教育支援に対する取組事例を紹介し、本学FDの定義にある「教員の自主的・自律的な日常的教育改善を支援すること」を目的としています。教育改善(支援)に関する研究及び問題提起、授業におけるユニークな実践事例など教育職員、事務職員等を問わず、皆様からのご寄稿を募集しています。

【内 容】FD(ファカルティ・ディベロップメント)、SD(スタッフ・ディベロップメント)に関するもの

【字 数】1,000～2,000字(応相談) 【写 真 等】掲載可(応相談)

【提 出 先】FD・学生支援推進委員会(事務局：教育支援センター) 内線2166  
e-mail: kanagawa-fd@kanagawa-u.ac.jp



## 教育支援センターにおける学習相談について

教育支援センターでは、大学での学修に必要な基礎学力を補い、さらに意欲的・主体的に自分の力を伸ばしたいと考えている学生を支援するために学習相談を行っています。

対象科目は、英語・数学・文章表現の3教科で、教育経験豊富な学習相談員が一对一の個別相談を通し学修をサポートします。

「大学での学修の仕方が分からない」「高校での基礎学習を今一度復習したい」などの相談の他に、「検定や就職活動のためにさらに力をつけたい」など、意欲的に自らの力を伸ばしたいという学生も増えており、様々なニーズに応じてアドバイスをしています。

2022年度も昨年度に引き続き対面での相談に加え、Zoomを用いたオンラインでの相談を実施しています。また、数学については学生が苦手な単元を中心に学習動画を配信し、個別相談日時以外でも学修が行えるようサポートを行っています。

### 利用案内

- 期 間…授業開講期間 月曜日～金曜日
- 時間・場所…横浜キャンパス（3号館1階）：12:40～17:50  
湘南ひらつかキャンパス（11号館）：11:50～16:50  
みなとみらいキャンパス（2階学習相談室/受付：教務課）：12:40～17:50
- 受講方法…対面/遠隔
- 予約方法…教育支援センター/みなとみらい教務課窓口  
ホームページ内（学習相談ページ）記載のメールアドレスより



### 学習相談室の開室日時（キャンパスごとの相談受付科目・相談員）

横浜キャンパス（12:40～17:50）

曜日	科目	担当
月	英語	澤田
	文章表現	阪井田
火	英語	田中(礼)
	数学	田中(義)
水	英語	澤田
	数学	田中(義)
木	数学	西
	文章表現	伊東
金	英語	澤田
	数学	西

湘南ひらつかキャンパス（11:50～16:50）

曜日	科目	担当
月	数学	榎本
水	英語	川口
金	文章表現	兵頭

みなとみらいキャンパス（12:40～17:50）

曜日	科目	担当
月	英語	田中(礼)
火	文章表現	伊東
木	英語	田中(礼)
金	文章表現	阪井田

※みなとみらいキャンパスで数学を希望する場合は他キャンパスの時間帯にオンラインでの相談が可能

### 学習相談を利用する学生の相談例

- 英語………基礎学習（リスニング・基本文法）、TOEIC®、英検
- 数学………高校数学の復習、微分積分、三角関数、数的処理、数検
- 文章表現…文章の組み立て方、レポート・論文の書き方



※詳しくは本学ホームページ（学習相談ページ）  
[https://www.kanagawa-u.ac.jp/campuslife/support/educational\\_supportcenter](https://www.kanagawa-u.ac.jp/campuslife/support/educational_supportcenter)



### 2022年度FD・学生支援推進委員会委員

#### 【委員】

委員長 中村壽宏、副委員長・人間科学部 衣笠竜太、副委員長・理学部 鈴木祥弘、法学部 出口裕明、経済学部 森田圭亮、経営学部 望月耕太、外国語学部 鈴木慶夏、国際日本学部 崔 瑛、工学部 松木伸行、建築学部 安田洋介、学修進路支援委員会 大田博樹、学生生活支援委員会 廣津昌和、メディア教育・情報システム委員会 木下佳樹、入試管理委員会 佐藤公俊、大学院学務委員会 堀口正之、共通教養教育センター運営委員会 村井寛志、教育支援センター事務部次長 梅香家睦子（以上17名）

#### 【オブザーバー】

学長室 是友めぐみ、教務部 能重幸夫、学生生活支援部 高橋厚、情報システム推進部 村山宏幸、入試センター 吉岡誠、経営政策部 小関真人（以上6名）

#### 【事務局：教育支援センター】

升田亘、天利百合、佐野恭平、榎山翔太、山口諒、堀江美奈子、平尾勇輝（以上7名）

ご意見、ご質問等がございましたら、お気軽にお寄せください。 E-mail [kanagawa-fd@kanagawa-u.ac.jp](mailto:kanagawa-fd@kanagawa-u.ac.jp)